

## 授業実践報告

# 乳幼児の『表現』をどのように捉えるか ～実習日誌のエピソード記録に着目して～

How to perceive the "expression" of infants  
: Focusing episode records of practical training

富田 浩子  
TOMITA Hiroko

**Keywords:** 領域『表現』、エピソード記録、実習日誌、保育実習、教育実習

## 1. はじめに

子どもを取り巻く環境の著しい変化を考えると、休日の戸外遊びの機会が著しく減り、自然環境の中で五感を研ぎ澄まし、のびのびと体験することが難しくなっている。また、子どもの生活にも密に入り込んでいる電子機器の問題も見逃すことはできない。一方で家庭について考えると、離婚や貧困、そして種々の就労形態など、家庭生活と養育に安定を欠く子どもが著しく増えている。そうすると結果、子どもの心の育ちに歪みが生まれるのではないかと、危機感さえ感じるのである。また大人の一方的な思いで、“こうさせたい”“こうなってほしい”という思いや都合が先行していくと、子どもの思いが見過ごされ、しっかり受け止めてもらえないことで不安も高まり、心身共に元気がなくなり、この点においても、次第に心が十分に育っていくことが脅かされていくのではないかと、こうした中で大人への信頼感が育まれることもなく、よって自己肯定感がもてないまま年齢を重ねていくのではないかと危惧してしまう。

だからこそ今、幼稚園や保育所(園)、そして認定こども園等の保育、教育の専門性を備えた保育者の存在は大きく重要であると言える。

2017年に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が同時に改訂された。この改訂を機に、従来からの幼稚園、保育所、認定こども園の良さを継承し発展させながらその根幹を明確にし、日本の全ての園で全ての乳幼児が良い保育や教育を受けることが可能になった。

改訂の要点として、1、『0歳から18歳までの子どもの育ちを見通し、それぞれの教育内容に整合性をもたせたこと』、2、『幼児期に育てたい資質・能力として、知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力・人間性等の3つが示されたこと』、3、『乳幼児期にふさわしい生活や遊びの中で育まれるものとして、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が示されたこと』が上げられる(無藤ほか,2017<sup>1)</sup>)。

保育内容『表現』という領域は、幼児教育の中で、大きな力を発揮してくれる。つまり表現する喜びは生きている証であり、自由であり、生きる喜びと言っても過言ではない。そして保育者が、

どのように子どもの表現を捉えるか、読み取りの重要性を痛感する。そこではまずじっくり子どもを見ていくことが大切になってくる。例えば、じっと砂遊びをしている子どもの内面に迫るように見ていくと、砂の感触、手のひらに伝わってくる冷たさ、砂山が崩れていく様子を見つめる目は、表面的な、『○子が砂いじりをしていた』という捉え方の先にある、共感や理解へとつながる読み取りが大切であると考え。そしてそれを記録していくことが、一人一人の理解へと結びついていく。私は保育者が記録をとる最大の意味は、子ども理解にとどまらない、書かれた事実の中に明日の保育を見いだす点にもあると考える。

一方保育者を目指す本学(茨城女子短期大学)の学生は、温かく乳幼児に寄り添い、実践への意欲はあるが記録が苦手であるという傾向は否めない。特に実習日誌にいたっては、時系列型の実習日誌を帰宅後に時間をかけてまとめるのが精一杯で、実習日誌の意義である、保育について考える力(これまでの学習で徐々に形成されてきた自分の保育に対する考えや思いを探っていくこと)、保育を観察する力(個人を見る、遊びを見る、集団を見る、保育や指導を見ること)、必要な部分を選択する力(保育中には気付かなかった乳幼児の行為の意味やその子の育ちが見えてくること)、読み手に分かるように文章にする力(どんな言葉を使って、自分の考えていることを表現できるか、他人に分かるような共通の言葉に置き換えること)、保育を振り返り考察する力(『なぜ?』に向き合うことは、自分の保育への思いを意識化すること))がどうしても薄れてしまう。卒業後保育者になって自分の保育を展開し、保育を振り返り、記録し、明日の保育につなげていくということ、つまり、保育者としての専門性が響き合うこんな真摯な園内研究を、日常的に作り出していくために必要となるのが記録である。よって2年間に在学中の貴重な実習体験の中で、実習日誌の記録が少しでも、『書かなければならない実習日誌』から『これを書いておきたいと思う実習日誌』となることを目的として、本論では、幼児期に育てたい資質・能力のうち、『表現力』の観点から、子どもの表現面に学生が着目した記録(以下、エピソード記録)(富田ほか,2018<sup>2)</sup>)を中心とした授業展開をまとめることにした。

## 2. 方法

### (1) 対象者

本学保育科2年生(85名)

### (2) 実践期間

2019年4月～2019年9月

## 3. 実践方法

### (1) 事前アンケート…4月(85名)

#### ① 1年時2月に行った保育実習Iを振り返るアンケートを実施

注：学生全員からアンケート結果の利用許可済み

アンケート対象者は、2月に初めて外部実習に行き、4月に2年生になった学生。教員は85人分の実習日誌を読んだ。そこでこのアンケートから、彼らが2月の実習の10日間で(特に実習日誌において)どのような点を学んで、どこに困難さを抱えているかを把握するために実施した。

表1 保育実習Ⅰ後のアンケート結果集計

|     | 質問項目                  | 内 容                                                                                                                           | 回答%  |
|-----|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 第一問 | 時系列型日誌記載の<br>所要時間(平均) | ① 1時間以内                                                                                                                       | 0%   |
|     |                       | ② 1時間から2時間                                                                                                                    | 3%   |
|     |                       | ③ 2時間から3時間                                                                                                                    | 20%  |
|     |                       | ④ 3時間から4時間                                                                                                                    | 60%  |
|     |                       | ⑤ 4時間から5時間                                                                                                                    | 12%  |
|     |                       | ⑥ 5時間以上                                                                                                                       | 5%   |
| 第二問 | 時系列型日誌で<br>得たこと       | ① 一日の流れを把握できた                                                                                                                 | 100% |
|     |                       | ② 遊びや生活から子どもの発達を理解できた                                                                                                         | 72%  |
|     |                       | ③ 保育者の子どもへの関わり方が分かった                                                                                                          | 100% |
|     |                       | ④ 保育環境を理解できた                                                                                                                  | 25%  |
|     |                       | ⑤ その他<br>・配属になったクラスの流れが把握できた<br>・部分実習や一日実習の際の指導案を書く時に役立った<br>・後で実習日誌を見たときに、10日間の実習の出来事や流れがよく分かる                               |      |
| 第三問 | 時系列型日誌で<br>大変だったこと    | ① 内容が多いのでまとめるのが大変である                                                                                                          | 58%  |
|     |                       | ② 内容が多いので時間がかかる                                                                                                               | 82%  |
|     |                       | ③ 毎日同じような内容になってしまう                                                                                                            | 49%  |
|     |                       | ④ 指導案や部分実習等の準備ができない                                                                                                           | 48%  |
|     |                       | ⑤ その他<br>・毎日変わらない部分を同じ言葉で書いていいの<br>か不安に思っていた                                                                                  |      |
| 第四問 | 日誌の項目で<br>難しかったところ    | ① 本日の実習のねらい                                                                                                                   | 11%  |
|     |                       | ② 主な活動                                                                                                                        | 9%   |
|     |                       | ③ 子どもの活動                                                                                                                      | 7%   |
|     |                       | ④ 保育者の援助や配慮                                                                                                                   | 83%  |
|     |                       | ⑤ 実習生の動き・気付き                                                                                                                  | 89%  |
|     |                       | ⑥ 環境構成                                                                                                                        | 22%  |
|     |                       | ⑦ 本日の実習から学んだこと・明日への課題                                                                                                         | 21%  |
|     |                       | ⑧ その他<br>・書きたいエピソードがあっても、書くスペースがない<br>・メモから具体的に記録していくことが難しい<br>・子どもの活動からの保育者の援助や配慮、そして自分がどのようなことをして、そこから分かった気付きの一連の流れの書き方が難しい |      |
| 第五問 | 実習全般で<br>大変だったこと      | ① 実習日誌(時系列型)                                                                                                                  | 95%  |
|     |                       | ② 指導案                                                                                                                         | 72%  |
|     |                       | ③ 子どもとの関わり方                                                                                                                   | 89%  |
|     |                       | ④ 担当指導者との人間関係                                                                                                                 | 60%  |
|     |                       | ⑤ 保護者対応                                                                                                                       | 9%   |
|     |                       | ⑥ その他<br>・実習日誌が辛かった。眠いし書けないし、なかなか思い出せなかった<br>・子どもはかわいいが、関わり方が難しい                                                              |      |

|     |                              |                                                                                                                                                        |                                                         |      |
|-----|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|------|
| 第六問 | 実習及び実習日誌の記載から学びたい内容          | ①                                                                                                                                                      | 保育所(園)の全体的な理解                                           | 14%  |
|     |                              | ②                                                                                                                                                      | 自分自身の課題の明確化                                             | 34%  |
|     |                              | ③                                                                                                                                                      | 子ども理解(発達や姿等)                                            | 80%  |
|     |                              | ④                                                                                                                                                      | 保育者の子どもへの関わり方や対応の仕方                                     | 74%  |
|     |                              | ⑤                                                                                                                                                      | 保育環境の理解                                                 | 18%  |
|     |                              | ⑥                                                                                                                                                      | その他                                                     |      |
|     |                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が読みやすい文字や文章が書けるようになること</li> <li>・自分の考えを正確に伝えることができること</li> <li>・一日の漠然とした流れではなく、自分自身の振り返りや反省ができること</li> </ul> |                                                         |      |
| 第七問 | 実習指導者から保育実習Ⅰの日誌の内容等で指導を受けたこと | ①                                                                                                                                                      | 本日の実習のねらいの書き方                                           | 12%  |
|     |                              | ②                                                                                                                                                      | 環境構成の書き方                                                | 4%   |
|     |                              | ③                                                                                                                                                      | 保育者の援助や配慮の書き方                                           | 64%  |
|     |                              | ④                                                                                                                                                      | 実習生の動きと気付きの書き方                                          | 71%  |
|     |                              | ⑤                                                                                                                                                      | 本日の実習から学んだこと・明日への課題                                     | 18%  |
|     |                              | ⑥                                                                                                                                                      | 誤字や脱字、表記の間違いについて                                        | 35%  |
|     |                              | ⑦                                                                                                                                                      | その他                                                     |      |
|     |                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生の動きは書けているが、気付きが少ない</li> <li>・子どもの活動は、保育者の援助や配慮をもっと具体的に書く</li> <li>・保育者の援助や配慮をもっと具体的に書く</li> </ul>           |                                                         |      |
| 第八問 | エピソード型日誌への期待と取り組み            | ①                                                                                                                                                      | 子どもの行動にはどのような意味があるのかを考えることで、子どもの理解が深まる                  | 92%  |
|     |                              | ②                                                                                                                                                      | 子どもの遊びや生活の様子をよく観察し、何をしていたか、だけでなく、“どのようにしていたか”という点に留意できる | 100% |
|     |                              | ③                                                                                                                                                      | より深く色々な角度から、保育者の動きや意味を考えたり、援助の意図を読み取ることができる             | 100% |
|     |                              | ④                                                                                                                                                      | エピソードに対する自分の気付きをまとめながら、明日からの課題も明確になってくる                 | 83%  |
|     |                              | ⑤                                                                                                                                                      | 時系列の日誌より時間がかからない                                        | 64%  |
| 第九問 | エピソード型日誌への不安                 | ①                                                                                                                                                      | エピソードとして特別に取り上げるのを見つけにくい                                | 100% |
|     |                              | ②                                                                                                                                                      | 一日の中で特に心に残ったエピソードや本日のねらいに関係することを、厳選して書くことができるか不安である     | 100% |
|     |                              | ③                                                                                                                                                      | 感想や考察等を文章化し、自由に記述することが難しい                               | 95%  |
|     |                              | ④                                                                                                                                                      | その他                                                     |      |
|     |                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのエピソードを詳細に書けるかどうか(量と質)</li> <li>・作文が苦手である</li> <li>・時系列型の実習日誌に慣れている</li> </ul>                               |                                                         |      |

(第二問から第九問は複数回答可)

(回答結果は小数点以下切り捨て)

## ②表1のアンケートの結果から教員が読み取った内容

- 時系列型の実習日誌を書き終えるためには、60%の学生が約3～4時間かかっている。さらに5時間以内も含めると約70%以上になり、帰宅後の生活時間(食事や入浴)を除くと、睡眠時間がかかなり短かったことがうかがえる。
- 時系列型の実習日誌では、100%の学生が“一日の流れを把握できた”“保育者の子どもへの関わり方が分かった”と回答、そして、後で実習日誌を見たときに、10日間の実習の出来事や流れがよく分かったと回答している。また、10日間、同じクラスに配属となるとは限らないので、その都度入ったクラスの流れが把握できた、ともいえるようだ。
- 時系列型の実習日誌で大変だったことは、“内容が多いので時間がかかる”と回答している学生は多く、また“毎日同じような内容になってしまう”という悩みがうかがえる。また、毎日同じ文章になってしまうことに不安がある学生もいる。
- 第四問では、やはり実習日誌では“保育者の援助や配慮”と“実習生の動きと気付き”の項目が難しかったと答えていて、この箇所に時間がかかっていたことが分かる。また時系列型の日誌では、エピソードを記入しにくい、書くスペースがないという感想もみられた。また学生の中には、子どもの活動に対する保育者の援助や配慮、そして自分の動きや気付きが難しいと思っているということが読み取れる。
- やはり実習全般で大変だったことは、ほとんどの学生が“実習日誌”と回答している。
- 実習日誌の記載から学びたい内容としては、“子ども理解”と“保育者の子どもへの関わり方や対応の仕方”が多かったが、“自分自身の課題の明確化”の25%には目を見張るものがある。また読みやすい文字や文章、さらには自分の考えを正確に伝えることなどを学びたい姿勢が読み取れた。
- “実習指導者から日誌の内容等で指導を受けたこと”で一番多かったことは、“実習生の動きと気付きの書き方”だったが、⑥の“誤字や脱字、表記の間違いについて”は、最近の学生の傾向からうなずける。
- “エピソード記録型日誌への期待と取り組みについて”は、ほとんどの学生が、①から⑤の項目をチェックをしていて、前向きな姿勢が喜ばしかった。
- “エピソード記録型日誌への不安について”は、①から③全部にチェックを入れていて、初めての形式への不安がうかがえた。具体的には、一つのエピソードを詳細に書けるかどうか(量と質)、作文が苦手である、時系列型の実習日誌に慣れている、などがあげられていた。

## (2) 授業内容

- ①幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容、領域『表現』の理解

実習において、子どもの表現を観察し、保育者の援助や関わりからの自分の気付きを深めるために、平成29年に改訂された3法令の中で、領域『表現』に着目し、具体例をあげながら講義した。特に子どもの表現を育てるための保育者の役割が理解できるようにした。

～乳児、満1歳以上3歳未満、3歳以上の表現の発達とそれを支える保育者の役割～

乳幼児が成長（発達）していく姿の5つの側面      保育内容・領域

心身の健康の面 → 健康  
 人との関わりの面 → 人間関係  
 環境との関わりの面 → 環境  
 言葉の獲得の面 → 言葉  
 感性と表現の面 → 表現



表2 乳児、満1歳以上3歳未満の領域『表現』

|               | ね ら い                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 内 容                                                                                                     |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 乳児            | (1)身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。<br>(2)見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。<br>(3)身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。                                                                                                                                                                                       | 《感覚の時代》<br>～瞬間の連続の中で～<br><br>【例】<br>マラカスを受け取る<br>↓ マラカスと手との間に<br>起こる偶然性<br>「うまく音が出た」<br>↓ 学習<br>心地よさの再現 |
| 満1歳以上<br>3歳未満 | (1)身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。<br>(2)感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。<br>(3)生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                         |
| 保育者の<br>役割    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安全な環境に身をおくことができるように配慮する。</li> <li>・子どもが安心して世界に関われるようにする。</li> <li>・子どもが関わりによって起こる変化を、喜びとして受け取ることができるように配慮する。</li> <li>・子どもが感情を自然に表し、子ども自身がそれを体験しながら、感性を育てられるように援助する。</li> <li>・子どもが、触ったり、なめたり、聴いたり、匂いをかいだり、味わったり、見たりして、自分の生活する世界を認識できるように援助する。</li> </ul> |                                                                                                         |

保育所保育指針<sup>3)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<sup>4)</sup>をもとに筆者作成

表3 3歳以上の領域『表現』

|            | ね ら い                                                                                                                                                                                                                                          | 内 容                                                                               |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 3歳以上       | (1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。<br>(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。<br>(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。                                                                                                                                                  | 《意味の世界》<br>～感覚的な喜びを土台として～<br><br>【例】<br>「海ってこんな色だったかな」<br>「うわあ、お魚焼けたよ。いい匂いがしてきたぞ」 |
| 保育者の<br>役割 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが、より美しいもの、よりはっきりしたもの、より面白いものへと向かっていく力に沿い、共に感じ、考え対話できる環境を構成する。</li> <li>・遊びが深まったり新しい遊びに出会ったりするように援助する。</li> <li>・一人一人の表現を認める。</li> <li>・“あなたはすばらしい”というメッセージを送る。また、むやみにほめるだけでなく、きちんと評価もする。</li> </ul> |                                                                                   |

保育所保育指針<sup>3)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<sup>4)</sup>、幼稚園教育要領<sup>5)</sup>をもとに筆者作成





写真 1-①

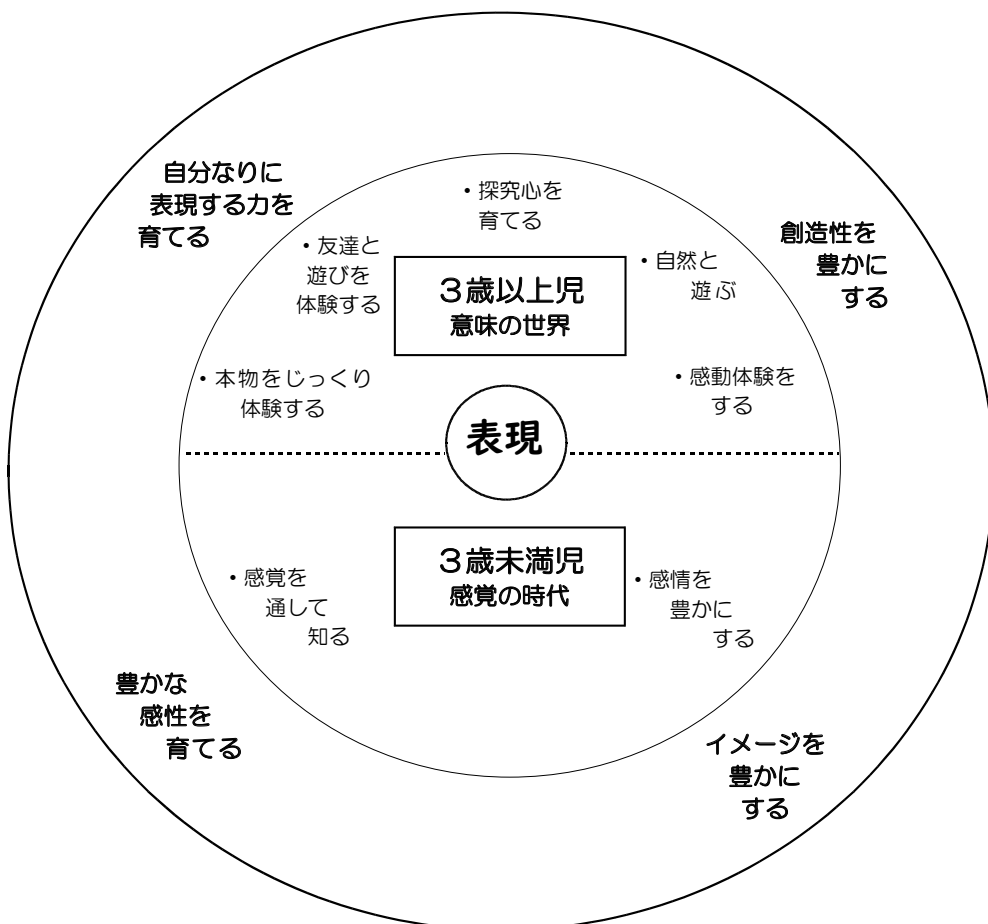
「海ってこんな色だったかな」



写真 1-②

「うわあ、お魚焼けたよ。いい匂いがしてきたぞ」  
(写真 1-①及び②は筆者撮影・使用許可済み)

図 1 生きる力を育むための領域『表現』のイメージ



②－１ 視聴覚教材（映像事例）から読み取った、『子どもの表現』と『保育者の関わり』のエピソード記録  
 （教育・保育のエピソードシリーズ）（注 1）  
 （ビデオライブラリーほか）（注 2）

メモをとりながら、『教育・保育のエピソードシリーズ』や『幼児とのかかわりを考えるシリーズ』のDVDを視聴した。そのメモを基に学生が作文化し、発表し合った。そこで自分では気付かなかった読み取りを学んだ。

～人や物との関わりの中で～

5 歳児クラスでは今、“遊べる折り紙”の製作が流行っていて、カメラや手裏剣など、難しい折り方にも挑戦していた。K 男は自分で手裏剣が作りたいと、A 子が「作ってあげる？」と言っても、「いい、自分で作るから」と言っていた。その様子を見ていた先生が次の日、手裏剣の折り方のページを拡大カラーコピーして壁面に貼っていた。すると K 男はその前で、しばらく苦戦していたが、先生が時々視きに来てく少し助言すると、何とかできあがった。保育者のさりげなく、かつ適切な環境構成の大切さがよく分かった。



写真 2－②

3 歳児クラスで先生が、「お月様みたいなキレイな丸いお団子を三つ作りましょう」と言うと、「せんせい、三つって何個？」と聞いていた。先生が「三個よ」と言うと、その子どもは、「わかった」と言い納得して丸め始めた。3 歳児の“三つ”と“三個”の概念が面白く、発達の姿を学ぶことができた。



写真 2－①

お月見に因んで、おやつに食べる団子を作ることになった。子どもは先生から、団子の原料である団子粉に水を加えて練り上げた物を配ってもらっていた。それらの形が色々で、子どもたちはロ々に、「ぼくのは車みたいだ」とか「恐竜の頭みたいに尖ってる」などと言ったり、ワクワクしながら、「粘土みたいだけれど食べられるの？」と先生に質問していた。4 歳児の想像力や姿に感動した。



写真 2－③

朝の自由遊びの時に 2 歳児クラスで先生が、「新聞紙ビリビリしたい人、おいで」と言った。すると初めは見ていただけの子どももどんどん参加していき、しまいには全員が新聞紙遊びに夢中になった。このような遊びのびした遊びは特に 2 歳児には合っているのではないかと考えた。またその際、子ども同士がぶつかったり、破いた新聞紙で滑って転ばないようにしたりすることも大切であると思った。



3 歳児の男の子が、フウセンカズラを“フウセンカズマ”と言っていた。そして、一粒の種を家に持ち帰って母親に見せるために、空き箱を探しセロテープで大事に封をしているほほえましい光景見て、子どもはとてもかわいく、純真で優しいと思った。



写真 2-④

フウセンカズラの一つの袋から、緑色、黄色、茶色、そして黒い種が出てきて、子どもたちは口々に、「先生、緑のは柔らかいよ」「黒いのは硬くて、お顔があるよ」「ボクは茶色いのが好きだな」などと口々に言っていた。保育者はそれを聞きながら、袋の色の違いにも気付けるような話をし、再度戸外に収穫に行った。保育者は、自然の不思議さや面白さに子どもと一緒に感動したり共感しながら、言葉で思いが表現できるように寄り添っていると感じた。

3 歳児がフウセンカズラの種を卵のケースに入れ振っていると、カサカサと心地いい音がした。すると側にいた保育者が、「お話ししているみたいだね」と言った。子どもは嬉しそうに「おはなし」「おはなし」と喜び、さらにケースを振り回していた。その後保育者がピアノ伴奏する曲に合わせて、手作り楽器遊びへと展開したのを見て、このように遊びが広がっていく保育を勉強することができた。

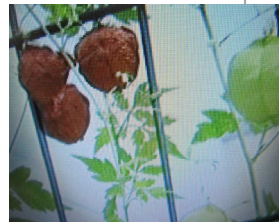


写真 2-⑤



写真 2-⑧

今日は運動会の練習の日だった。今までは各クラス毎に練習していて、今日初めて全体でやったので、間隔のとり方や隊形変化に戸惑っていた。でもダンスが得意な4歳児の R 子はすぐに理解できて、F 子に「ここだよ、この辺」と分かりやすく教えていた。しかし F 子はあまりやる気がないようにだった。担任の先生に「R 子ちゃん、ありがとうね」と言われていた。この様子を見てダンス表現には個人差もあるのだということを感じた。



写真 2-⑦



写真 2-⑨

昨日この冬初めて雪が降って子どもたちは大喜びだった。5歳児つき組の子どもたちも今朝は登園後からとても張り切り園庭に飛び出して行った。H 子は周りの友達に、「小さい雪玉を作って転がして大きくしよう」と提案したが、雪の表面が凍っていてうまくいかないことにすぐ気づき、「ダメダメ、シャベルで集めてきてペタペタしよう」と言った。しばらくすると7、8人で雪だるまが完成。すると H 子は、探してきた枝などを雪だるまの顔に付けながら、「雪だるまさんの仲良しがいるお空を見てるようしよう」と言った。優しい顔でまるで空を見ているような雪だるま H 子の発想に感動し、5歳児の言葉の成長の姿を学ぶことができた。



写真 2-⑥



写真 2 - ⑩

4 歳児の男の子  
2 名が積み木で  
家を作っていた。

それを少し離れた所から見ていた B 男が、仲間に入りたい様子だったが言えずに傍観していた。その様子を見ていた保育者は、しばらく優しい雰囲気で見守っていた。それから保育者は、「ガオー!!」と言いながら突然恐竜になって積み木の家に近付いていきながら、B 男に向かって、「恐竜になろう」と誘い、二人で仲間に入ってしまった。こうして積み木遊びをしていた2名の男の子たちも面白がって遊びが盛り上がっていった。この場合保育者は初めから B 男の代弁をしなかったが、私だったら、B 男の手を取って「入れて」と言ったかもしれないと思った。私は、保育者の関わりは大変難しいと思い、また、色々な関わり方があるということが分かった。

誕生会の様子を見て、1 年に一度自分の番がきて皆に祝ってもらふ誕生会は、子どもにとって大変楽しみにしている特別な日であることが分かった。そして誕生会担当の保育者は、誕生会を行うホールの飾り付けをしたり、プログラムの中に、布や紙などで作った手作りのケーキに本物のろうそくを立て火を付けたり、乳酸菌飲料で乾杯を組み入れたりして会が盛り上がるように配慮していた。このような環境の設定も保育者の大切な仕事の一つで、そこには保育者の感性や表現力が大事であり、誕生会という特別な行事の大切な要素であることが分かった。



写真 2 - ⑪

(写真 2 - ③⑥⑧⑨⑪は筆者撮影・使用許可済み)

(写真 2 - ①②④⑤⑦⑩は注 1 及び 2 より使用)

## ②-2 エピソード記録に取り組んだ学生の感想(グループワーク)

エピソード記録への理解や必要性、そして不安を共有するために、7, 8人のグループに分かれ、『子どもの表現』『保育者の関わり』『エピソード記録』の観点から感想を話し合った。

## 【子どもの表現に着目して感じたこと、考えたこと】

- 改めて子どもはかわいいと思った。
- 映像を観ていたら実際にその場に行きたい気持ちになった。
- 子どもの言葉の表現は不思議でとても面白いと思った。
- 子どもの発想は素直で楽しく、個性にあふれていると思った。
- 子どもたちが何を考えているか、考えながら観察することが大切であると考えた。
- 年齢別の発達をよく勉強しなければならないと思った。
- 子どもの目線になって観ていくと、子どもの色々な姿が、その子なりの形で表現されているということに気付いた。
- 子ども一人一人は感性が違い、表現力も違うということが分かった。
- 子どもから教えられることがたくさんあると思った。
- 子どもの興味や関心は広く、子どもたちが様々な工夫をして遊んでいるということが分かった。
- 子どもには意思があり、考える力をもっていると感じた

## 【保育者の関わりを見て感じたこと、考えたこと】

- 保育者は子どもの気持ちに寄り添った援助をすることが大切であると思った。
- 保育者としての姿勢や援助のあり方を学ぶことができた。
- 保育者の言葉の表現は素晴らしいと思った。
- 保育者の存在は、時には表面で、また時には陰になるということを勉強した。
- 自分は保育実習Ⅰで、よく考えて援助をしていなかったのではないかと反省した。
- 私だったらこの場面をどのように対処するだろうと考えた。
- 保育者は子どもの気持ちを第一に考えて対応していた。自分もそのようになりたいと思った。
- 保育者自身が、日常の保育の色々な場面で表現を楽しんでいる姿を、子どもたちは身近で感じながら成長していくのだと思った。

## 【エピソード記録をしてみて感じたこと、考えたこと】

- 映像の中からどの部分を書くか迷った。
- どうまとめればよいか、文章化するのが難しかった。
- エピソードを細かく捉えて、詳しく書くことは大切だと思ったが、私は詳しく書くことが苦手だ。
- エピソードをまとめるには、メモを取ることが大切であり必要だと思った。
- この映像を見ていない人に伝えるように書くことは、なかなか難しいと思った。

- 今まで実習日誌にはできごとだけを書いていたが、そこからなぜそうだったか、側にいた自分はこうした方がよかったか、などを振り返ることが大切だと気付いた。
- このように映像からエピソードを抽出し、よく考え、時間をかけて記録していくことは大変勉強になった。
- 実習中は精一杯で深く考える時間がなかったので、今後実習日誌にエピソード記録を書くことができるか不安である。

## ②－３ 学生が１年時２月の保育実習Ⅰで書いた時系列型の実習日誌の一例

学生は自分の保育実習Ⅰの実習日誌で、エピソードとして取り上げやすい、または取り上げたい日を選択した。

### 一時系列型の実習日誌

《例：学生 K.T の場合》

実 習 日 誌

| 令和 元年         | 2 月 21 日                                                     | 木曜                                                                                         | 天候(晴れ)                                                                                                                                         | 実習生氏名                                                                                                                                                                            | 〇〇 〇〇 |
|---------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| クラス           | 2 歳児                                                         | ばら 組                                                                                       | 18名 (男児10名 ・ 女児8名)                                                                                                                             | 欠席2名                                                                                                                                                                             |       |
| 今日の<br>実習のねらい | 子ども一人一人の様子を観察したり、積極的に関わったりする。                                |                                                                                            | 主な活動<br>(遊び、生活、行事等)                                                                                                                            | 新聞紙遊び                                                                                                                                                                            |       |
| 時間            | 環境構成                                                         | 子どもの活動                                                                                     | 保育者の援助と配慮                                                                                                                                      | ◎実習生の動き・◎気付き                                                                                                                                                                     |       |
| 7:30          | 絵本<br>玩具                                                     | ○順次登園(所)<br>・挨拶をする。<br><br>○自由遊び<br><br>○片付け                                               | ○明るく笑顔で迎え入れる。<br>視診(検温・触診)をする。<br><br>○一緒に遊んだり見守ったりする。<br><br>○片付けの習慣が身に付くように声かけを行い、必要に応じて援助をする。                                               | ● 子どもと保護者を明るく笑顔で出迎える保育者の関わりを観察した。<br>◎「待っていましたよ」という雰囲気を受け入れることが何より大切であり、保護者も安心して仕事に向かえるということがわかった。<br><br>◎子どもの脱いだ下着等を並べておく、とても穿きやすいということがわかった。<br>● 手洗いの手伝いをし、終わった子から座るように誘導した。 |       |
| 9:30          | アレルギー<br>アレルギー                                               | ○おやつ<br>・「いただきます」<br>・牛乳を飲む。<br>・「ごちそうさまでした」<br>・おしぼりで口と手を拭く。                              | ○牛乳アレルギー児には配膳に注意しながら別な物を用意する。                                                                                                                  | ● おやつが終わったら、机の上や床を拭いて清潔を心がけた。                                                                                                                                                    |       |
| 9:50          | 新聞紙<br>新聞紙                                                   | ○朝の集まり<br>・元気に歌を歌う。<br>・出席調べ                                                               | ○ピアノで伴奏しながら一緒に歌う。<br>(ゆきのぺんきやさん)<br>次に一人一人呼名をして返事ができるように促す。                                                                                    | ● 子どもの側に付いて一緒に歌った。                                                                                                                                                               |       |
| 10:00         | 小さいビニール袋<br>…人数分<br>大きいビニール袋<br>…2枚<br>かご<br>ビニールテープ<br>新聞紙等 | ○新聞紙遊び<br>・広げる、破る、ちぎる、集める、丸める、投げる<br>・新聞紙をカゴに入れ頭上から降る新聞紙を雪に見立て遊ぶ。<br>・ビニール袋に新聞紙を入れ、ボールを作る。 | ○子どもに新聞紙を渡す。<br>遊びに夢中になった子どもがぶつからないように注意しながら保育者も一緒に遊ぶ。<br><br>○大きなビニール袋に集めるように伝える。                                                             | ● 始め興味を示さない子どもに「一緒にやろうか」と声をかけたり真似ができるように丸めたり、「ビリビリするよ」と言ったりして、より興味をもてるように関わった。<br>● ビニール袋の口を結び、ボールにして投げたりして一緒に遊んだ。                                                               |       |
| 11:00         | 新聞紙等                                                         | ○片付け                                                                                       | ○片付けの習慣が身に付くように声かけを行い、必要に応じて援助をする。                                                                                                             | ● 「また一緒に遊ぼうね」と遊びの終わりを知らせながら一緒に片付けをする。                                                                                                                                            |       |
| 11:15         | 新聞紙等                                                         | ○排泄<br>・スポンや下着等を着脱する。<br>・手洗いをする。<br>・着席する。                                                | ○トイレでけがなどがないように見守ったり、介助したりする。                                                                                                                  | ● 子どもの脱いだ下着等を次に穿きやすいように整えて並べておく。<br>● 手洗いの手伝いをし、終わった子から座るように誘導した。                                                                                                                |       |
| 11:30         |                                                              | ○給食<br>・エプロンを付ける。<br>・「いただきます」<br>・「ごちそうさまでした」<br>・おしぼりで口と手を拭く。<br>・うがいをする。                | ○机いすを準備したり、机の上を拭いたりする。<br>○給食の準備をする。<br>配膳したら、食前の挨拶をうながす。<br>一緒に食べながら、食事の進まない子どもに言葉をかけ励ましたり、「今日もお魚おいしいね」など、食事に期待がもてるような話をしたりする。<br>食後の挨拶をうながす。 | ● 全員に給食が行き届いているか確認をした。<br>● 私も子どもと一緒に楽しく会話をしながら食事をした。<br>◎保育者は手分けして子どもの側に付き一緒に食事をしていたが、アレルギー児の机は少し離し、側に一人保育者が付いて食べるようにしているということがわかった。<br>◎食前食後の挨拶をきちんと習慣付けていることが勉強になった。          |       |

|                                                                                                      |      |                                   |                                                                             |                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12:20                                                                                                |      | ○排泄<br>・スポンや下着等を着脱する。<br>・手洗いをする。 | ○トイレでけがなどが無いように見守ったり、介助したりする。                                               | ◎この間、子どもを援助する保育者と、室内清掃をし布団を敷く保育者と役割を分担していた。                                                                             |
| 12:40                                                                                                | □□□□ | ○パジャマに着替える。<br>・絵本を見る。            | ○午睡中排泄が安定していない子どもは紙パンツにする。<br>励ましたり、できないところを手伝ったりする。<br>絵本を読む。<br>カーテンを閉める。 | ◎午睡前の絵本の選択は、ゆったりと落ち着いた内容にしていると思った。<br>◎寝付きにくい子どもには、体に優しく触れたり、胸の辺りをトントンしたりするなど、安心して眠れるように援助していた。<br>● 布団を片付けたり、机を出したりした。 |
| 14:50                                                                                                | □□□□ | ○午睡<br>・「おやすみなさい」と言い布団に入る。        | ○目覚めた子どもから起こしていく。<br>自分で穿こうとしている姿を見守りながら、「パンダさんの方が前だよ」とわかりやすく伝える。           | ◎なかなか目覚めない子を無理に起こさずしばらくそっとしておいて、一番最後に起こすようにしていた。<br>● おやつ後に拭き掃除をして床を清潔にした。                                              |
| 15:15                                                                                                |      | ○おやつ                              | ○「今日のおやつは何か？」と言いながら、子どもが楽しみにしているおやつ時間を明るく和やかな雰囲気にする。                        | ● 私も安全面に注意しながら一緒に遊んだ。                                                                                                   |
| 16:00                                                                                                |      | ○自由遊び                             | ○安全面に気をつけながらゆったりとした時間が過ぎるようにする。<br>この間、一人の保育者は、一人一人の荷物の確認等をする。              | ● 保護者が迎えに来た時の子どもの様子を観察した。                                                                                               |
| 16:30                                                                                                |      | ○順次降園(所)<br>↓<br>延長保育             | ○保護者に日中の様子を伝えたり、「明日も待っていますよ」と言ったりして、帰りの挨拶をする。                               | ◎一日仕事をして疲れて帰ってきた保護者をねぎらったり、子どもが元気に過ごしたことなどを伝えたりして、保護者が安心して帰るよう温かい雰囲気に対応しているということが分かった。                                  |
| 19:00                                                                                                |      | ○降園終了                             | ○戸締まりをする。                                                                   | ● 全員帰ってから保育室の整理整頓をしたり掃き出したりして、明日の保育に備えた。                                                                                |
| 反省(振り返り・明日に向けて)                                                                                      |      |                                   |                                                                             |                                                                                                                         |
| ・今日で実習が四日目となり、当初の緊張はほぐれてきて、だんだん積極的に関わることができるようになってきました。覚えた名前で呼んだら、子どもがとても喜んでくれたので、早く全員の名前を覚えようと思います。 |      |                                   |                                                                             |                                                                                                                         |
| ・絵本の読み聞かせをさせていただきましたが、なかなか子どもの様子を見ながら読むことができなかったのて、これからはもっと事前に練習を積んで、余裕をもって読めるようにしたいと思います。           |      |                                   |                                                                             |                                                                                                                         |
| ・AさんとBさんがおもちゃの取り合いをしてけんかが始まりましたが、私はどうしてよいかわからず、担任の先生を頼ってしまいました。一つしかない物を取り合った時にはどのように対応したらよいのでしょうか。   |      |                                   |                                                                             |                                                                                                                         |
| 指導欄                                                                                                  |      | 指導者                               |                                                                             | 印                                                                                                                       |

茨城女子短期大学



②ー 4 学生が各自選択した保育実習Ⅰの実習日誌(時系列型)の中から、実習生の気付きを、より詳しく書く練習をした

この部分に着眼して、エピソード記録(形式Ⅰ)に『子どもの活動』『保育者の援助と配慮』『実習生の気付きと観察』に分け、より詳細に書き出した。

エピソード記録(形式Ⅰ)

|                                                                                                                                                                                                         |                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 令和 元年                                                                                                                                                                                                   | 2 月 21 日                      | 木曜                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 天候(晴れ)                  | 実習生氏名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 〇〇 〇〇 |
| クラス                                                                                                                                                                                                     | 2 歳児                          | ばら 組                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 18 名 (男児 10 名 ・ 女児 8 名) | 欠席 2 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |
| 今日の<br>実習の<br>ねらい                                                                                                                                                                                       | 子ども一人一人の様子を観察したり、積極的に関わったりする。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                         | 主な活動<br>(遊び、生活、行事等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 新聞紙遊び |
| 子どもの活動                                                                                                                                                                                                  |                               | 保育者の援助と配慮                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                         | 実習生の気付きと観察                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |
| ○先生の話聞く。<br>○新聞紙で遊ぶ。<br>・ 広げる<br>・ 破る<br>・ ちぎる<br>・ 集める(つまむ)<br>・ 丸める<br>・ 投げる<br>・ 一人、二人と新聞紙を破き始めると、他の子どもも真似をして破き始める。<br>・ ビリビリという音に喜ぶ子どももいる<br>・ 新聞紙を渡されて、どうしたらよいか、戸惑う子どももいる<br>・ 新聞紙を舞い上げて見上げる子どももいる |                               | ・ 大きく広げた新聞紙を見せ、「今日は大きな紙を使って一緒に遊ぼうね」と伝える。<br>・ 子どもたちに新聞紙を渡す。<br>・ 新聞紙遊びを一緒に楽しむ。<br>・ どうしていいか戸惑う子ども、興味を示さない子どもや、集中しにくい子どもには個別で言葉かけをする。<br>・ 「みんなもやってみよう」とちぎっていいことを知らせ、遊びを誘導する。<br>・ 真似ができるように、保育者が丸めたり、破ったり、小さくちぎったりして見せる。<br>・ ちぎった新聞紙をカゴに入れて、紙吹雪のように舞い上がらせ、雪に見立てて遊ぶように、保育者自らがやってみせる。<br>・ 新聞紙の上を走って、すべって転ばないように注意して見守る。 |                         | ・ 子どもたちの前で保育者が楽しく遊ぶ姿を見せることで、新聞紙に興味をもてるようになったり、自然と友達と触れ合っている姿が見られた。<br>・ 破ることを繰り返していると集中力が出てきたり、たくさん破ることで、「できた」という満足感にもつながるのではないかと考えた。<br>・ 新聞紙が破ける音を楽しみながら、飽きずにずっと破いている子ども、新聞紙を破らずにくしゃくしゃにして丸め、ボールを作って遊ぶ子ども、ゆっくり丁寧に細かくちぎる子ども、新聞紙を紙吹雪のように舞い上がらせていた子どもなど、遊び方は様々であった。2歳児にとってこの遊びは、とてもおびきとしていて、興味が持続していたし、子どもの個性が現れて面白かった。<br>・ 日常生活にない音を耳で感じ、私も子どもと一緒に新鮮な刺激を得られたように感じた。<br>・ 子どもたちの嬉しそうな顔が印象的であり、家庭においてこのように紙を思い切り破くという行為は、たぶんしてはいけないことになっていると思うので、普段の生活にない開放感があったのではないかと考えた。<br>・ 安全面を意識したが、2歳児でも月齢の低い子どもはまだ動きのコントロールが難しく、特に走ると、勢いが付いて思わぬけがにつながるため、室内では注意が必要であることが分かった。 |       |
| ○新聞紙ボールを作って遊ぶ。<br>・ 小さいポリ袋に部屋中に広がった新聞紙片を入れる<br>・ 先生に口を閉じてもらう<br>・ 投げて遊ぶ                                                                                                                                 |                               | ・ 小さいポリ袋を渡して、「袋にたくさん新聞紙を入れてボールを作しましょう」と言う。<br>・ たくさん新聞紙片が入った子どものポリ袋をビニールテープで丸くして閉じる。                                                                                                                                                                                                                                    |                         | ・ 部屋中に広がった新聞紙を片付ける手段として、新聞紙ボールを作ったり、先生が大きいビニール袋を掃除機に見立てて掃除機の吸い込む「ブーン」という音を出しながら新聞紙ボールを集めたり、子どもたちはその都度盛り上がり喜んでた。保育者の素晴らしい演出だと思った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |
| ○新聞紙ボールを先生が持っている大きいビニール袋に入れる。                                                                                                                                                                           |                               | ・ 次に、大きいビニール袋を掃除機に見立てて、子どもたちの新聞紙ボールを集める。                                                                                                                                                                                                                                                                                |                         | ・ 私は普段からおとなしいA男が遊ぼうとしなかったの、「一緒にやろうか」と声をかけたり、真似ができるように丸めたり、「ビリビリするよ」と言ったりしたがやらなかった。しかし先生が作ってくれた新聞紙の洋服がとても気に入って最後まで着ていた。それぞれの子どもが色々な思いや遊び方で、この遊びの楽しさを味わっているのだと感じた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |
| ○手洗い、うがいをします。                                                                                                                                                                                           |                               | ・ 新聞紙で遊んだ後は、うがいをしたり石けんで手をしっかり洗ったりすることを伝える。                                                                                                                                                                                                                                                                              |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |



## ②ー5 ②ー4 で書いたエピソード記録 (形式Ⅰ) をエピソード記録 (形式Ⅱ) に構成的に文章化する

今後の実習で書けるように、エピソード記録 (形式Ⅰ) で書いた、『子どもの活動』『保育者の援助と配慮』『実習生の気付きと観察』の要点を抽出しながら、エピソード記録 (形式Ⅱ) に作文する練習をした。

## エピソード記録 (形式Ⅱ)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|
| 【新聞紙遊びについて】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |   |
| <p>今日は午前10時から、先生が用意した新聞紙で遊んだ。初めは先生が新聞紙を大きく広げながらビリビリという音をたて、破ったり丸めたりして見せた。すると早速「やりたい」と言い新聞紙を欲しがると子どもがいたので配った。また新聞紙を手にしてもどうしていいかわからずに傍観している子、興味を示さない子もいたが、先生は無理強いすることなく、先生自身が楽しそうに遊んでいる姿を見せながら、次第に参加できるように関わっているようだった。私は普段おとなしいA男が興味を示さない様子だったので、「一緒にやってみようか」と言い誘ったが、首を横に振られてしまった。側についていると先生がA男に近付いてきて、一枚の新聞紙を洋服の形にちぎってみせ、「着てみる？」と聞いた。するとA男が頷いたので先生は着せてあげた。初めは嬉しそうではなかったが、A男は最後まで着ていて新聞紙で遊ぶ友達の様子を見ていた。同時に段々盛り上がってきて、子どもたちは走り回ったりはしゃいだりしていたので先生は子どもたちに走り回らないことを伝えて注意して見守っていた。やはり2歳児でも、月齢の低い子どもはまだ動きのコントロールが難しく、夢中になると勢いが付いて思わぬけがにつながるため、室内では注意が必要であることが分かった。</p> <p>大変遊び盛り上がって、私は部屋中に散らばった新聞紙をどのように片付けるのだろうと思っていて、先生は銘々に小さいポリ袋を渡して、「袋にたくさん新聞紙を入れてボールを作って遊びましょう」と言った。すると子どもたちはまた盛り上がって夢中で集めはじめ、先生にビニールテープで口を閉じてもらって、思い思いの所に投げて遊んでいた。その後今度は先生が大きいビニール袋を持って掃除機のブーンという音を出しながら子どもたちの所に寄って行き、「さあ、吸い込んじゃうよ」と言いながら子どもたちのボールを集めていた。私は先生の素晴らしい演出に感動した。この遊びを通して、子どもたち一人一人の嬉しそうな顔が印象的であり、家庭においてこのように紙を思い切り破くという行為は、たぶんしてはいけないことになっていると思うので、普段の生活にない開放感があったのではないかと痛感した。</p> |       |   |
| 指 導 欄                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 指導者氏名 | ㊞ |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |   |

茨城女子短期大学

(3) 6月の保育実習Ⅱや9月の教育実習で、時系列型の実習日誌に加えてエピソード記録(形式Ⅱ)を課した

学生は実習でメモを手がかりにしながらエピソード記録(形式Ⅱ)に挑戦した。実習先及び配属クラスにより記録の回数は異なる。学生は色々な内容のエピソードを取り上げることができていた。以下には、子どもや保育者の表現に着目した記録の例を3点掲載した。

【学生 N.H】

エピソード記録 (形式Ⅱ)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|
| <b>【運動会の応援係決め (5歳児の言葉の表現)について】</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |   |
| <p>今日は年長組で運動会の応援係決めを行った。もうすでに決まっている係もあったが、今日は、“赤組の団長”“白組の太鼓”“赤白の旗手係”を決めることになった。赤組の団長は、全員一致でA男にすぐ決まったが、白組の太鼓は、B子の提案でオーディションをすることになった。まず私は、5歳児のオーディションで決めるという発想に驚いた。つまり、オーディションという言葉を知っていたのだ。そして赤組のC男が、「白組の太鼓なんだから、白組で決めた方がいいよ」という提案をすると、B子が、白組の子どもたちに「どうする?」と聞くと、白組のほとんどの子どもは、「賛成」と言って手を上げたが、D男だけは納得していない様子で手を上げなかった。すかさずB子が、D男に「意見があったら言って」とはっきり言うとうD男はその場で泣き出してしまった。そこまでじっと見ていた先生が、そこで初めてD男に、「D男君に、何かいい考えがあったんだね」と言った。そして泣き止まないで、「D男君が泣き止むまで、紅白の旗手係を決めましょう」と言った。保育者はそれぞれの性格を考慮しながら、一人一人が自分の意見を言えるようになってほしいのだと気付いた。</p> <p>旗手係は、やりたい人が挙手するという事になった。赤組は、自分がやりたいと自己主張できる子が多く、2名を決めるところ5名の子が手を上げた。先生が、「さあ、どうやって決めるか」と聞くと、「じゃんけん、じゃんけん」と口々に言って、結局E男とF子に決まった。</p> <p>D男が泣き止んだので、先生がD男に、「どう、意見言える?」と聞くと、D男が小さい声で、「赤組にも、オーディションを見てもらった方がいい」と言った。すると多くの子どもが「賛成」と言い、オーディションが始まった。</p> <p>私はこの様子を側でずっと見ていて、私が思っていたよりも5歳児の言葉の数はとても多く、発達は性格も関係があるが、自己主張がはっきりしている子どもと、控えめな子どもがいるということ、そして、話し合いにおける保育者の助言や適切な関わりが大事であることが分かった。</p> |       |   |
| 指 導 欄                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 指導者氏名 | ㊞ |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |   |

【学生 A. K】

## エピソード記録 (形式 II)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|
| 【自分で作った物で遊ぶ活動について】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |   |
| <p>本日は3歳児クラスで主活動の部分実習をさせていただいた。このクラスに配属になって5日目、クラスの雰囲気や子どもたちの様子はだいぶ分かってきて、自由遊びでお化け屋敷ごっこで盛り上がっていたので、内容は、まず紙コップから飛び出すお化けを作って、全員できあがったらそれで遊ぶということにした。はじめ、お化けの絵本『おばけのたからさがし』を読んで興味が高まるようにすると子どもたちは皆喜んでみている。次に飛び出すお化けの完成品を見せ、遊び方をやってみると子どもたちは目を輝かせて、「ほしい」「やらせて」「作りたい」と言った。そこでまず各グループ5人の机に油性マジック3セット、小さいポリ袋一枚ずつを配って、ポリ袋に顔を描くことをやって見せてから始めた。するとほとんどのグループはスムーズに始めたが、ぼんだグループのS男とT男がマジックの取り合いになり、S男が泣いてしまった。二人とも黒いマジックを使いたかったのだ。他のグループで使い終わったのを渡して何とかおさまった。顔を描けた子どもたちが口々に「描けたァ」と言い、「次はどうすればいいの」と大騒ぎになってしまった。私は「はい、描けた人は先生の所に並んでください」と伝え、次々に、用意してあったストロー付きの紙コップにポリ袋を付けてあげた。その時子どもの中にはまだ描いている子もいたが、私はそちらが気になりながらもどんどん並んでくる子どもが遊びたくて、「早くやって」と言うのでこちらに対応していた。結局、最後に描き終わった子どもは袋を紙コップに付けてもらってから十分に遊ぶ時間がなくなってしまい、不満そうに片付けることになった。今回の部分実習を通して、3歳児には一人1セットのマジックを用意した方がよかったこと、“描き終わったらどうするか”を伝えておかなかったこと、製作のスピードには個人差があること、保育者一人で16人に対応する方法をよく考えておくこと、紙コップに付けたストローの位置は、大人であればどの位置でも大丈夫であるが、3歳児にはどこがよかったかを事前によく考えておくことなど、多くの反省点と気づきがあった。</p> |       |   |
| 指 導 欄                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 指導者氏名 | 印 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |       |   |

茨城女子短期大学

【学生 M.M】

## エピソード記録 (形式 II)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|
| 【ぶどうの製作について】                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |   |
| <p>今日は3歳児クラスの一実習(主活動)でぶどうの製作を行った。私は前日までの担任の先生の導入の仕方や、楽しく展開できるような雰囲気づくりなどをよく学ばせていただいた。担任の先生は常にゆっくりした雰囲気ですすめていて、子どもたちが不安にならないような言葉かけをしたり、「できないところは先生が手伝ってあげますよ」と言ったりしていた。</p>                                                                                                     |       |   |
| <p>私ははじめ、「なぜなのでしょう。紫色の丸い粒がたくさん付いている果物は何でしょう」と言っていて、ぶどうというイメージをもつことができるようにした。そこで子どもたちは口々に「ぶどう」と言ったり、「緑のもあるよね」「ピンクのもあるよね」と言っていたが、一人一人の様子を見ると、子どもたちの中にはぶどうというイメージが湧かないのか、ボーッとしている子どももいた。ここでは導入として、ぶどうの絵本や写真、ぶどうの絵のペープサートまたは本物を用いてじっくりと関わり、次に行う製作に期待がもてるようにした方がよかったのではないかと反省した。</p> |       |   |
| <p>次に、ぶどうのスタンプ遊びでは、まず私がスタンプした物を見せ、自分もやってみたいと思えるようにしたり、スタンプのやり方をよく示した。その際、ぶどうの型紙に隙間を空けて押すように伝えたが、子どもからは、「いっぱい押して、美味しいぶどうにしたい」という言葉が出た。私は隙間を空けた方がぶどうらしいのではないかという、大人の考え方で進めようと思った。しかし子どもたちは、スタンプ遊びが楽しくて、好きなように押していたのでそのまま進めた。</p>                                                  |       |   |
| <p>この製作のねらいや3歳児の発達から、3歳児のぶどうのイメージはそれぞれであり、それを保育者は尊重しながら、一人一人が十分に表現することができることが大切であるということに勉強することができた。</p>                                                                                                                                                                         |       |   |
| 指 導 欄                                                                                                                                                                                                                                                                           | 指導者氏名 | ㊞ |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |   |

茨城女子短期大学

## (4) 事後アンケート…10月 (85名)

## ①保育実習Ⅱと教育実習を終えて、エピソード記録を中心に振り返るアンケートを実施

注：学生全員からアンケート結果の利用許可済み

アンケート対象者は、4月の事前アンケートに答えた学生。

エピソード記録型の実習日誌に取り組むための授業に臨んだ学生が、6月と9月の実習でエピソード記録型の実習日誌に取り組み、どのような点を学び、どこに困難さを抱えているかを把握するために実施した。

表3 保育実習Ⅱ及び教育実習後のアンケート結果集計

|     | 質問項目                          | 内 容                                                                                       | 回答% |
|-----|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 第一問 | エピソード記録型<br>日誌記載の<br>所要時間(平均) | ① 1時間以内                                                                                   | 0%  |
|     |                               | ② 1時間から2時間                                                                                | 12% |
|     |                               | ③ 2時間から3時間                                                                                | 58% |
|     |                               | ④ 3時間から4時間                                                                                | 18% |
|     |                               | ⑤ 4時間から5時間                                                                                | 11% |
|     |                               | ⑥ 5時間以上                                                                                   | 1%  |
| 第二問 | エピソード記録型<br>日誌記載で<br>得たこと     | ① 遊びや生活から子どもの発達を理解できた                                                                     | 72% |
|     |                               | ② 保育者の子どもへの関わり方が分かった                                                                      | 83% |
|     |                               | ③ エピソードとして特別に取り上げることができた                                                                  | 74% |
|     |                               | ④ 子どもの行動にはどのような意味があるのかを考えることで、子どもの理解が深まった                                                 | 82% |
|     |                               | ⑤ 子どもの遊びや生活の様子をよく観察し、何をしていたかだけでなく、“どのようにしていたか”という点に留意することができた                             | 83% |
|     |                               | ⑥ より深く色々な角度から保育者の動きや意味を考えたり、援助の意図を読み取ることができた                                              | 60% |
|     |                               | ⑦ エピソードに対する自分の気付きをまとめながら、明日からの課題が明確になった                                                   | 64% |
|     |                               | ⑧ 時系列型の日誌より時間がかからなかった                                                                     | 92% |
|     |                               | ⑨ 記録することが楽しくなった                                                                           | 58% |
|     |                               | ⑩ その他<br>・エピソードとして取り上げるべきことは、メモの中から選んだ                                                    |     |
| 第三問 | エピソード記録型<br>日誌記載で<br>大変だったこと  | ① エピソードとして特別に取り上げるのを見付けにくかった                                                              | 82% |
|     |                               | ② 一日の中で特に心に残ったエピソードや本日の実習のねらいに関係することを厳選して書くことが難しかった                                       | 83% |
|     |                               | ③ 感想や考察等を文章化し、自由に記述することが難しかった                                                             | 92% |
|     |                               | ④ なかなかこのエピソード記録型に慣れなかった                                                                   | 58% |
|     |                               | ⑤ 一つのエピソードを詳細に記録していくことが大変だった                                                              | 74% |
|     |                               | ⑥ その他<br>・エピソードとして取り上げることがたくさんある日となかなか見つけにくい日があった                                         |     |
| 第四問 | 日誌の項目で<br>難しかったところ            | ① 子どもの活動                                                                                  | 58% |
|     |                               | ② 保育者の援助や配慮                                                                               | 71% |
|     |                               | ③ 実習生の動き・気付き                                                                              | 83% |
|     |                               | ④ その他<br>・どの項目が難しかったというよりも、①から③をどのようにまとめるかが難しかった<br>・実習は日中色々忙しいが、よく観察することがとても大切であることを痛感した |     |

|     |                                                           |                                                                                                                                      |      |
|-----|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 第五問 | 実習全般で<br>大変だったこと                                          | ① 実習日誌(エピソード記録型)                                                                                                                     | 7.1% |
|     |                                                           | ② 指導案                                                                                                                                | 8.2% |
|     |                                                           | ③ 子どもとの関わり方                                                                                                                          | 5.8% |
|     |                                                           | ④ 担当指導者との人間関係                                                                                                                        | 6.0% |
|     |                                                           | ⑤ 保護者対応                                                                                                                              | 1.2% |
|     |                                                           | ⑥ その他<br>・指導案は実習前に多く準備をしておけばよかったと思った<br>・質問をするタイミングが難しかった<br>・私には実習担当の先生の言葉が厳しく聞こえてとても辛かった                                           |      |
| 第六問 | 実習日誌の記載から<br>学びたい内容<br>(日誌の形式にかかわらず)                      | ① 保育所(園)の全体的な理解                                                                                                                      | 7.2% |
|     |                                                           | ② 自分自身の課題の明確化                                                                                                                        | 4.8% |
|     |                                                           | ③ 子ども理解(発達や姿等)                                                                                                                       | 8.2% |
|     |                                                           | ④ 保育者の子どもへの関わり方や対応の仕方                                                                                                                | 8.3% |
|     |                                                           | ⑤ 保育環境の理解                                                                                                                            | 2.5% |
|     |                                                           | ⑥ その他<br>・正確に分かりやすく、簡潔に書くこと<br>・子どもの行為の意味や理由を理解する<br>・保育者の援助や配慮の意味、つまりなぜ先生は<br>そのように言ったのかを学びたい                                       |      |
| 第七問 | 実習指導者から<br>指導を受けたこと                                       | ① 取り上げたエピソードの内容<br>(子どもの活動)                                                                                                          | 8.3% |
|     |                                                           | ② 保育者の援助や配慮                                                                                                                          | 6.0% |
|     |                                                           | ③ 実習生の気付きと考察の書き方                                                                                                                     | 6.4% |
|     |                                                           | ④ 誤字や脱字、表記の違いについて                                                                                                                    | 2.2% |
| 第八問 | 時系列型と<br>エピソード記録型<br>日誌の比較                                | ① 時系列型日誌は、園の一日の流れをきちんと把握することができるので、初期の実習に適している                                                                                       | 9.2% |
|     |                                                           | ② エピソード型の日誌では、エピソードに対する自分の気付きをまとめながら、明日からの課題が明確になってきた                                                                                | 7.1% |
|     |                                                           | ③ 時系列型の日誌よりエピソード型の日誌の方が時間がかからないと思っていたが、深く掘り下げ、考えながら書くので意外と時間がかかった。                                                                   | 6.4% |
| 第九問 | エピソード記録型<br>日誌で<br>“苦しい実習日誌”<br>から<br>“書きたい実習日誌”<br>になったか | ① とてもそう思う                                                                                                                            | 4.8% |
|     |                                                           | ② そう思う                                                                                                                               | 2.5% |
|     |                                                           | ③ あまりそう思わない                                                                                                                          | 1.8% |
|     |                                                           | ④ 全くそう思わない                                                                                                                           | 9%   |
|     |                                                           | ⑤ その他<br>・自分が注目したことを書き進めるうちにその時の情景が浮かんで来て、そこで実習生の自分はどのように関わったのか、どうすればよかったのだろうか、と振り返りながらじっくり日誌に向き合えて、時系列型で書いていた時のように毎日追い詰められたようではなかった |      |

(第二問から第九問は複数回答可)

(複数回答の結果は小数点以下切り捨て)



## ②表3のアンケートの結果から教員が読み取った内容

- 約70%の学生が1～4時間で書き終えた、と回答している。さらにその中で1～2時間で書き終えることができた学生も約12%いた。しかし一方で、4～5時間、さらにはそれ以上かかっている学生が約12%いることも見逃せない。
- 第二問の“エピソード記録型の実習日誌”では、多くの学生が、保育者の子どもへの関わり方や子どもの行動にはどのような意味があるのかを考えることで、子どもの理解が深まった、子どもの遊びや生活の様子をよく観察し、何をさせていただけでなく、“どのようにしていたか”という点に留意することができた、と回答している。またそのためには、メモの活用の重要性にも気付いている。
- 第三問の回答を見ると、大多数の学生が、エピソード記録型の実習日誌に挑んで、自分で観察したことや実践したことの中から何を取り上げるか、それをどのように文章化するか等、苦戦していた様子がうかがえる。また学生の目線からは、エピソードが多い日と少ない日があり、迷いながらの記述だったと推測した。
- 第四問では、その他のにも書かれていたように、まとめ方の難しさを感じている。併せてよく観察することの大切さも分かったようである。
- 実習全般で大変だったことは、今回、“指導案”と回答した学生が一番多かった。そして指導案は実習前に多く準備をしておく必要性に気付いている。また学生は日誌の形にかかわらず記録への変換さを感じていると思われる。
- 第六問の実習日誌の記載から学びたい内容としては、今回のアンケートでも“子ども理解”と“保育者の子どもへの関わり方や対応の仕方”の回答率が高かったが、“保育所(園)の全体的な理解”の回答が72%と高かったのは実習の積み重ねから得た成長ではないかと捉えた。またその他の記述の中に、“保育者の援助や配慮の意味、つまりなぜ先生はそうに言ったのかを学びたい”とあり、目を見張るものがあった。
- 実習指導者からの指導内容は、新しい試みである、“エピソード記録”についてが多かった。
- 第七問の回答から学生は、苦労はするが、時系列型の実習日誌の意味を捉えることができてい。そして約半数以上の学生が、エピソード記録型の実習日誌にはまだまだ慣れず、また詳細に具体性をもって記録することが難しく時間がかかったようだ。
- 第九問について、①と②を合わせて約73%の学生が、エピソード記録型日誌を経験し“書きたい実習日誌”になったと回答した。しかし、③と④と回答した学生も約27%いたことも見逃せない。その他の記述の中に“…振り返りながらじっくり日誌に向き合えて…”と書いた学生がいて、これは時系列型の日誌だけを書いていたときには出てこなかった感想であると受け止めた。

## 4. 考察

## (1) 事前、事後アンケートの結果について

事前アンケートと事後アンケートの対象は同じ学生で実施した。

事前アンケートをとることにより、本学の学生の傾向や正確な情報を得ることができた。やは

り実習自体が実習日誌に振り回されていると言っても過言ではない。そしてそれによって「実習は苦しい」と感覚的に捉えてしまう傾向や様々な不安がある。また帰宅後の実習日誌記載に大変時間がかかり、時系列型日誌の問題性にも着目しなければならないと考えた。これは、単に時間的な問題ばかりでなく、実習本来の意義を考えた時に、本論の『はじめに』にも記したように、観察をして文章化し振り返るという一連の営みをより効果的な実習日誌の形式へと変換していく必要性を確認できた。さらにアンケートから書くこと自体への苦手意識があるという結果が明確になった部分もあり、どのような対策を講じるか、その後の方向性を定める手立てとなった。

事前アンケートの結果を受けて事後アンケートの回答から、依然として書く作業への課題は残るが、改善された点や学生の日誌に対する意識の変化も読み取れた。自由記述の『その他』には、観察の意味や大切さに気付いたり、子どもの行為の理由を理解したり、それに対する保育者の援助や配慮を掘り下げて考えようとしていた学生の変化を感じた。また第九問の、『エピソード記録型日誌で“苦しい実習日誌”“書きたい実習日誌”になったか』という問いに対して、自由記述で“自分が注目したことを書き進めるうちにその時の情景が浮かんできて、そこで実習生の自分はどのように関わったのか、どうすればよかったのだろうか、と振り返りながらじっくり日誌に向き合えて、時系列型で書いていた時のように毎日追い詰められたようではなかった”と回答している学生がいた。この感想からも取り組みの成果を読み取ることができた。

## (2) エピソード記録について

筆者は、2018年発行の本学の紀要でも述べたように、『エピソード記述』の要素を用いて、保育に関する様々な方向からの授業展開を通して、エピソードの抜き出しを『エピソード記録』と定義することとした。そこで本学保育科の実習日誌の見直し的一端として、エピソード記録に着目した、『エピソード記録型日誌』を作成し、現行の実習日誌と合わせてどのように活かしていけるか模索しながら、2019年度入学生からこの形式も採用することにした。保育記録の書き方をあらためて考えたときに、書くことはよく観ることのトレーニングであり、一方で、「このことを書きたい」と思う視点や意欲が大切であると考えている。しかし実習日誌は帰宅後の限られた時間内に記述するし、何をしたかという羅列が中心となっている傾向がある。そこで筆者は、実習前の授業で、文章の基本である、5W1H、つまりWho(誰が)、When(いつ)、Where(どこで)、Why(なぜ)、How(どうした)を意識して書くように伝えた。これらを継続していくと、正確な文章を書くためには、正確に観ることや効果的なメモが重要になってくると気がついた学生もいたことが確認できた。

またエピソード記録の様式は子ども一人一人への理解や保育についての考え方を深めるのに適しているものの、時間に沿った一日の流れや保育者の細かな動きを記録し学ぶのには適していない。よって実習の時期や実習段階、そして学年を考慮した上での選択が望ましいと考える。

今回、エピソード記録(形式 1)からエピソード記録(形式 2)へと発展させていく形をとってみたが、(形式 2)に記載する際に、子どもの活動、保育者の援助と配慮、そして実習生の気付きと観察等が盛り込まれた作文の方法は、適していたと思われる。しかし一部の学生にとってはやはり、文章化の困難さがあつた事実是否めない。

## 5. まとめと今後の課題

保育は、子どもが何を感じ、どんなふうな心持ちでいるか、そして子どもが生み出すものを新鮮にキャッチできることが大切であり、同時に保育者自身の心持ちも重要であるとする。子どもは存在が尊重され認められ、受け入れられることによって自己感が生成される。保育者はそのために、一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら子どもとの継続的な信頼関係を築き、そうしていくと子どもは自分への自身をもつことができるようになっていく。冒頭でも述べたように、子どもを育てることに意識して取り組まなければならない時代だからこそ、特に保育現場に課せられた義務は大きいといえる。

子どもの生活において、感性と創造性を育むことの意味を考え、子どもの表現を、大人の価値観から評価すべきでないことは言うまでもない。保育実践においては、保育者の意図と子どものやる気との兼ね合いはなかなか難しいが、本来乳幼児期の表現は、保育者に支えられながら、あくまでも子ども主体のもとに発揮され、子どもの内面性が外に表れたものとして理解されるものであると考える。したがって子どもの表現において保育者のやるべきことは、子どもが表したいと思うものや出来事に出会える機会をつくることであり、「表現すること」を楽しめる環境を構成することである。そして子どもたちが達成感や充実感を得ることができるように導き支えること、そして何より大切なことは、子どもが表したいものの内にある純粋なエネルギーをそのまま受けることである。

子どもは表現したがっている。言い換えると、表現することは子どもにとって喜びである。そして領域『表現』で示されているように、「自分なりに」表現できることが、その喜びを支えるのであろう。

筆者は学生が乳幼児期の表現の発達を具体的に学ぶことを考え、子どもの観察や姿の読み取り、表現活動のエピソードの抽出を実践した。同時に実習日誌にも着目し、自分の考えを正確に伝えられる文章化の練習、読み手に伝わる文章を意識して書く力、具体性のある記録を目指した。

単に子どもの姿を列挙するのではなく、子どもの表現をすくい取りながら、「なぜだろう」と子どもの内面に問いかけること、記録を書く最大の意味は、子どもを理解することだけではなく、書かれた事実の中に、明日の活動を見いだすことにあるという点が学生に伝わっただろうか。

2年間の保育者養成において、子どもの表現の読み取りと質の高い記録のとり方は、引き続き今後の課題である。学生自身、自分の思いを文字にのせて表現する営みは決して楽なことではないが、誰かに伝えたいという思いで整理された記録は、「わかってほしい」という願いの中に、記録の質を考える力が潜んでいる点を探っていきたいと考える。書き言葉の対話の相手は自分しかない。よって、思考する主体としての自分だけを頼りに書くのだが、学生に是非、書き続けることで子どもを見つめる眼差しが柔らかくなり、子どもの心の動きに「共感的態度」で臨めるような保育者を目指してほしいと願う。

## 注

(注1) 佐藤浩代 / 寺田千栄監修, 教育・保育エピソードシリーズ 生活・遊びを通して学ぶ, (株) 新宿スタジオ

(注2) ビデオライブラリー「人・モノ・コトとの関わり」, (株) 新宿スタジオ

## 引用文献

- 1) 無藤隆 / 汐見稔幸編, 2017, イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりブック, 学陽書房 pp.8-11.
- 2) 富田浩子 / 廣部朋美 / 安藤みゆき, 2018, 学生のエピソード記録の質を高める保育実践, 茨城女子短期大学紀要 pp.21-32.
- 3) 厚生労働省 (告示第 117 号) 保育所保育指針 第 2 章保育の内容, 2017
- 4) 厚生労働省 (告示第 117 号) / 内閣府 / 文部科学省 (告示第 1 号) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第 2 章ねらい及び内容並びに配慮事項, 2017
- 5) 文部科学省 (告示第 1 号) 幼稚園教育要領 第 2 章ねらい及び内容, 2017

## 参考文献

- ・ 汐見稔幸 / 無藤隆監修, 2018, 保育所保育指針, 幼稚園教育要領, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント, ミネルヴァ書房
- ・ 無藤隆監修, 2018, 事例で学ぶ保育内容領域 表現, 萌文書林
- ・ 鯨岡峻 / 鯨岡和子著, 2017, 保育のためのエピソード記述入門, ミネルヴァ書房
- ・ 鯨岡峻 / 鯨岡和子著, 2015, エピソード記述で保育を描く, ミネルヴァ書房
- ・ 一般社団法人 全国保育士養成協議会, 2018, 中央法規出版株式会社
- ・ 無藤隆著, 2017, 3 法令改定 (定) の要点とこれからの保育, チャイルド本社
- ・ 小櫃智子, 2017, 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド, わかば社
- ・ 公益財団法人 児童育成協会, 2019, 保育実習 新・基本保育シリーズ②, 中央法規出版株式会社
- ・ 茨城女子短期大学 実習ガイドブック, 2018, 茨城女子短期大学保育科